

クレスチャンの姉がまとめたエッセイ

『かわいくて、わがままな弟』出版

筋ストロワイと闘い、21年の人生を閉じた金澤正和さん。国際基督教大学（ICU）の3年生だった正和さんは、その生き方を通して家族や友人の心に大きな足跡を残した。正和さんは信仰告白こそ至らなかったが、母や姉の授けに出席するかたわら、聖書も読んでいたという。生前、正和さんが記した手紙を姉の絵里さんがまとめて本にした。ICU教養で学んだ正和さんがまとめた本は、ICU教養で行われた告別式で用辞を述べた森本あんりさん（同大宗教・神学教授）のインタビューをまとめた報告する。

国際問題の評論家に「かわいくて、わがままな弟」講談社・470頁・2600円として出版。本書には正和さんの誕生から死に至るまでの体面としてのことは勿論、最も近いのは1日時間や？い存在であったクレスチャンの母や姉にも焦点が当てられている。1年生の夏休みに家族に勧められ、パソコンで執筆を始め、21歳で執筆を始めた。書き残したエッセイはA判60枚には「ICUの平和構築論」が設けられ、平和構築論に関する分野の学部卒業生1人毎に賞が授けられることがエッセイをまとめた。



「かわいくて、わがままな弟」講談社・470頁・2600円として出版。本書には正和さんの誕生から死に至るまでの体面としてのことは勿論、最も近いのは1日時間や？い存在であったクレスチャンの母や姉にも焦点が当てられている。1年生の夏休みに家族に勧められ、パソコンで執筆を始め、21歳で執筆を始めた。書き残したエッセイはA判60枚には「ICUの平和構築論」が設けられ、平和構築論に関する分野の学部卒業生1人毎に賞が授けられることがエッセイをまとめた。

となった。

また、正和さんは

05年度の「フレ

ス・オフ・ICU賞

に選ばれた。同賞は毎

年功績のあった大学関

係者を表彰するもの

で、春卒業式に家族

に賞状が授けられた。

「難病と闘いながら

も勉学に励み、その真

摺な態度と努力によ

り、学生は勇気づけ

られ、家族は絆を強め

いことであります。

なせ悪や苦しみがこの

世に存在するのかと

いうのではありませ

し、しかし、そのような

痕跡のものがたりが

うです。ね。そつと

いて「明るく生きま

したってわざとらし

さもなく、非常に自然

体だと思えました。過

剰な同情をせずに、

かもしれないと、森本

さんは言う。

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思

一人の教師として、あ

のみなさんと共に、感

場に出席している学生

れた彼に、今日、この

とであります。

推薦した一人でもあ

・オフ・ICU賞へ

正和さんをフレ

足る喜びだ、というこ

でも、お返事をるに

聞いた。森さんは、

正和さんについて話を

すべてそれにつき込ん

まされたと言っていました。

根が書かれていた。

書で「悪だの」苦し

れを引受けただけで、そ

なと思われられる、良

くることができればい

生を自分にして、かつ

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思

一人の教師として、あ

のみなさんと共に、感

場に出席している学生

れた彼に、今日、この

とであります。

推薦した一人でもあ

・オフ・ICU賞へ

正和さんをフレ

足る喜びだ、というこ

でも、お返事をるに

聞いた。森さんは、

正和さんについて話を

すべてそれにつき込ん

まされたと言っていました。

根が書かれていた。

書で「悪だの」苦し

れを引受けただけで、そ

なと思われられる、良

くることができればい

生を自分にして、かつ

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思

一人の教師として、あ

のみなさんと共に、感

場に出席している学生

れた彼に、今日、この

とであります。

推薦した一人でもあ

・オフ・ICU賞へ

正和さんをフレ

足る喜びだ、というこ

でも、お返事をるに

聞いた。森さんは、

正和さんについて話を

すべてそれにつき込ん

まされたと言っていました。

根が書かれていた。

書で「悪だの」苦し

れを引受けただけで、そ

なと思われられる、良

くることができればい

生を自分にして、かつ

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思

一人の教師として、あ

のみなさんと共に、感

場に出席している学生

れた彼に、今日、この

とであります。

推薦した一人でもあ

・オフ・ICU賞へ

正和さんをフレ

足る喜びだ、というこ

でも、お返事をるに

聞いた。森さんは、

正和さんについて話を

すべてそれにつき込ん

まされたと言っていました。

根が書かれていた。

書で「悪だの」苦し

れを引受けただけで、そ

なと思われられる、良

くることができればい

生を自分にして、かつ

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思

一人の教師として、あ

のみなさんと共に、感

場に出席している学生

れた彼に、今日、この

とであります。

推薦した一人でもあ

・オフ・ICU賞へ

正和さんをフレ

足る喜びだ、というこ

でも、お返事をるに

聞いた。森さんは、

正和さんについて話を

すべてそれにつき込ん

まされたと言っていました。

根が書かれていた。

書で「悪だの」苦し

れを引受けただけで、そ

なと思われられる、良

くることができればい

生を自分にして、かつ

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思

一人の教師として、あ

のみなさんと共に、感

場に出席している学生

れた彼に、今日、この

とであります。

推薦した一人でもあ

・オフ・ICU賞へ

正和さんをフレ

足る喜びだ、というこ

でも、お返事をるに

聞いた。森さんは、

正和さんについて話を

すべてそれにつき込ん

まされたと言っていました。

根が書かれていた。

書で「悪だの」苦し

れを引受けただけで、そ

なと思われられる、良

くることができればい

生を自分にして、かつ

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思

一人の教師として、あ

のみなさんと共に、感

場に出席している学生

れた彼に、今日、この

とであります。

推薦した一人でもあ

・オフ・ICU賞へ

正和さんをフレ

足る喜びだ、というこ

でも、お返事をるに

聞いた。森さんは、

正和さんについて話を

すべてそれにつき込ん

まされたと言っていました。

根が書かれていた。

書で「悪だの」苦し

れを引受けただけで、そ

なと思われられる、良

くることができればい

生を自分にして、かつ

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思

一人の教師として、あ

のみなさんと共に、感

場に出席している学生

れた彼に、今日、この

とであります。

推薦した一人でもあ

・オフ・ICU賞へ

正和さんをフレ

足る喜びだ、というこ

でも、お返事をるに

聞いた。森さんは、

正和さんについて話を

すべてそれにつき込ん

まされたと言っていました。

根が書かれていた。

書で「悪だの」苦し

れを引受けただけで、そ

なと思われられる、良

くることができればい

生を自分にして、かつ

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思

一人の教師として、あ

のみなさんと共に、感

場に出席している学生

れた彼に、今日、この

とであります。

推薦した一人でもあ

・オフ・ICU賞へ

正和さんをフレ

足る喜びだ、というこ

でも、お返事をるに

聞いた。森さんは、

正和さんについて話を

すべてそれにつき込ん

まされたと言っていました。

根が書かれていた。

書で「悪だの」苦し

れを引受けただけで、そ

なと思われられる、良

くることができればい

生を自分にして、かつ

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思

一人の教師として、あ

のみなさんと共に、感

場に出席している学生

れた彼に、今日、この

とであります。

推薦した一人でもあ

・オフ・ICU賞へ

正和さんをフレ

足る喜びだ、というこ

でも、お返事をるに

聞いた。森さんは、

正和さんについて話を

すべてそれにつき込ん

まされたと言っていました。

根が書かれていた。

書で「悪だの」苦し

れを引受けただけで、そ

なと思われられる、良

くることができればい

生を自分にして、かつ

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思

一人の教師として、あ

のみなさんと共に、感

場に出席している学生

れた彼に、今日、この

とであります。

推薦した一人でもあ

・オフ・ICU賞へ

正和さんをフレ

足る喜びだ、というこ

でも、お返事をるに

聞いた。森さんは、

正和さんについて話を

すべてそれにつき込ん

まされたと言っていました。

根が書かれていた。

書で「悪だの」苦し

れを引受けただけで、そ

なと思われられる、良

くることができればい

生を自分にして、かつ

「彼はただ、自分の人

がいたなら自然に助け

ることでなければい

ることを期待して、あ

謝を申しあげたいと思